

ユニフェム・カレンツ 2007年6月号より（抜粋）

「ガーナ2008年」に向けて：ユニフェム、ジェンダー平等を 支援拡大の中心に置く



国際社会が開発援助の効果を高めるための新たな支援方式を模索しているとき、ユニフェムは支援効果を開発効果に転換する鍵として、ジェンダー平等への投資増大を促してきた。近年、開発協力の仕組みと融資について見直しが行われてきた。パリ宣言は、ドナー国と受益国とのパートナーシップおよび受益国主体のプロセスによって進められる新たな援助割り当てのビジョンを描き出した。これによって生じたチャレンジとチャンス、ユニフェムは世界中の女性の生活向上を前進させるきっかけとしてきた。

ジェンダー平等促進を開発努力の中心とすることの意義を強調して、ノエリーン・ヘイザー・ユニフェム事務局長は、これを怠ることは「貧困と飢餓の削減、母子の死亡率の引き下げ、H I V／エイズ蔓延防止に向けた道を遅らせる」ことになることを警告した。

2007年5月20日カザフスタンのアルマティで開かれた「独立国家共同体のジェンダー平等と権利に基づく開発計画と予算編成についてのハイレベルフォーラム」に向けてヘイザー事務局長は、ジェンダー平等や人権といった横断的な問題について、「新たな支援環境の中で強力な発言の場を見出す」必要性を強調した。この会議は、ユニフェムとカザフスタンの政府、上級政府高官、国会議員、地域の女性グループのほか、二国間あるいは多国間のドナー代表が共同で組織したものである。

この会議は、ジェンダーの視点を支援効果の拡大という課題に浸透させるための知識、能力、パートナーシップを築くために、ユニフェムが開いている一連の地域会議のひとつである。これらの会議は、パリ宣言の見直しを行う2008年「ガーナにおける支援効果に関するハイレベルフォーラム」に向けた進捗にあわせたものでもある。

また、この作業の結果は2008年2月25日～3月7日に開かれる「第52回国連婦人の地位委員会」へ送られる資料ともなる。同委員会はその優先テーマとして、「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントへの資金調達」を検討する予定である。

☆H I V／エイズ対策を 人権問題への取り組みにリンク

「H I V／エイズのジェンダー的側面：女性差別撤廃条約（CEDAW）と女性に関するアフリカ憲章議定書へのリンク」と題して、ユニフェムのトレーニング・ワークショップが、2007年5月24～27日にプレトリアで開かれた。

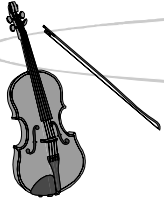
アフリカ9カ国からの参加者は帰国後に、自国でのH I V／エイズ対策を女性の人権規範に結びつけるという課題に取り組む行動計画を作成することを決定、すでに計画の提出が始まっている。

☆和平構築と性的暴力の防止に努める女性を支援する コミュニティプログラム立ち上げ



ユニフェムは、紛争中あるいは紛争後の地域で和平を構築し、性的暴力の防止に努める女性を支援する2ヵ年プログラムを立ち上げた。「紛争時に和平構築と性的暴力の防止に関わる女性を支援するコミュニティ・ベース・アプローチ」と題するこのプログラムは、2007年4月16～20日にウガンダのリラで開かれたワークショップで立ち上げられた。プログラムの資金は英国国際開発省（DFID）から供与される650万ドルで賄われ、紛争中あるいは紛争後の状態にある6カ国、アフガニスタン、ハイチ、リベリア、ルワンダ、東ティモール、ウガンダが対象となる。

（翻訳：上田恵美、武末明子、西村洋子、平野和子）



☆瀧村依里ヴァイオリン・リサイタル☆



「東京文化会館 小ホール」にて

7月28日（土）東京は梅雨明け宣言も出ないままの猛暑でしたが、瀧村依里氏の奏でるヴァイオリンの調べは、まさに涼風を運んでくれました。

あどけなさの残る額に大粒の汗を滲ませての熱演、ピアノ伴奏の佐野主聞氏との若さあふれるコンビネーションの巧みさに、会場には感動の波が伝播していきました。

「梅雨明け前の盛夏の午後に一服の清涼剤のような素敵な演奏を有難う。これから仕事ですが、頑張れそうです」「毎回のコンサートを楽しみにしています」「ユニフェム東京を再認識しました」「ユニフェム東京の活動の内容を初めて知ったので、できるだけ協力したい」などなど皆さまからの活動へのご理解やご意見をたくさん頂きました。チャリティーコンサートも、今回で10回目、少しずつ進むべき方向が定まってきたのではないかと思います。



☆オールソフィアンの集い☆



上智大学四谷キャンパスで開催された5月27日（日）のオールソフィアンの集いでのフリマ出店は、今年で2回目です。天候には恵まれたのですが、『はしか』の流行の影響もあったのでしょうか、昨年よりやや少ない人出でした。そんな中、私達ユニフェム東京は、昨年の2倍のスペースを借りました。

皆様お馴染みの葉書、カード、メモ箋、Tシャツなどのユニフェム東京オリジナルグッズ、ペーパーナプキン、開発途上国の製品に加え、今回は全く新しい試みとして、家から持ち寄った様々な品物に破格の安値をつけて販売しました。汕頭（スワトウ）のハンカチ、石鹸と小さなタオルのセット、押し絵の羽子板、バッグ、夏物の素敵な衣類等々。途中で会員の方が博多帯とブランドのバッグをご提供くださり、それも売らせていただきました。

この場を借りてお礼を申しあげます。ありがとうございました。

また駐フィリピン大使夫人の山崎憲子様、現地の女性たちの自立を支援するためにご自身が製作指導された製品を並べて販売している私たちのショップに立ち寄り、その様子をごらんになって大変喜んでいらっしゃいました。

このほかユニフェムの活動を広く知って頂くためにチラシを300枚用意し、様々なショップが並ぶメインストリートを配り歩きました。若者、昔若かった者合わせておそらく数千人規模の集いだったと思います。晴天の中、気分は20代（笑）で、少し若返ったように感じた楽しい一日でした。



フィリピングッズ
「鶏のなべつかみ」



国内委員会からのお知らせ

「ユニフェム日本国内委員会15周年記念ラオス・カンボジアスタディーツアー」は、10月30日～11月9日の予定で、全国から計28名の参加者が決まり、6月18日から事前の勉強会が始まりました。ラオスではユニフェム日本国内委員会が支援するプロジェクトのある絹織物生産地のパクテア村訪問やラオス手工芸フェスティバルに参加してラオスの女性との交流、カンボジアでは2005年度に支援金を送った「エイズ陽性女性連絡会（CCW）」の方々との交流、タイ・バンコクではユニフェム・アジア事務所訪問など盛り沢山の忙しいツアー企画になり、準備が進んでいます。12月15日午後には、「スタディーツアー報告会・地域等委員会ネットワーク会議」が東京ウイメンズプラザで予定されています。

大好評の ユニフェムグッズ

設立から8年目を迎え、年々、コンサート会場をはじめ、バザーや委託によるグッズ販売の収益は着実に増えています。昨年までの日本から国連ユニフェムへの拠出金は、3,650万円を超えますが、そのうちグッズ販売・寄付金等あわせて約三分の一はユニフェム東京の拠出金にあたります。これも多くの皆さまのご協力の賜物と感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



ラメ入りストール
スカーフ(小) & ポーチ



新着ペーパーナプキン



石山洋子様(会員)の原画による
オリジナルカード4枚組セット



ユニフェムショップ
よこはま



グッズの数々

訃報

ユニフェム東京会員の皆様



ユニフェム東京初代会長中村ミチコ様は、去る6月16日熊本の病院でご逝去されました。享年88歳でした。中村ミチコ様は若い頃から、女性の高等教育の推進、女性の地位向上に心を致し、さらに国際的視野に立ち、指導的役割を果たしてこられました。1975年の国際婦人年日本大会で結成された「国際婦人年の決議を実現するための連絡会」では、1991年、連絡会の中に「ユニフェム委員会」を組織して初代委員長をされました。翌年、ユニフェム日本国内委員会が設立され、常任理事、副会

長を歴任されました。ただ「ユニフェム委員会」は、一般の個人会員・団体会員を募集することが出来ないため、3年もの間、地道な努力の末に2000年4月8日に「ユニフェム東京」が発足して初代会長となりました。

昨年「ユニフェム東京5年史」の編纂委員長を勤められましたが、責任感の人一倍強い中村ミチコ様は、私たちには体調の悪いことを一言もいわれずに、最後まで委員会に出席されました。今年1月の総会には、手術後のことでご出席が適わず、メッセージをお寄せくださったことは、ご出席の皆様のご記憶に新しいことと存じます。

私たちは、初代会長としてユニフェム東京の基礎を築いてくださった中村ミチコ様のユニフェムへの熱い思いを忘れずに開発途上国の女性の支援に一層役立つよう、努力することが中村ミチコ様へのはなむけと信じます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

「中村ミチコさんを偲ぶ会」へのお誘い

長いこと、グローバルな視野で女性の地位向上に尽くしてくださった中村さんを偲び、左記により「中村ミチコさんを偲ぶ会」を開催いたしますので、みなさまどうぞお誘い合わせの上ご出席ください。

▼発起人代表：五十嵐康子(ユニフェム東京会長) 江尻美穂子(国連NGO国内婦人委員会委員長) 田中正子(大学婦人協会会長) 野瀬久美子(日本汎太平洋東南アジア婦人協会会長) 山口みつ子(国連NGO婦人委員会事務局長) (50音順)

日 時：2007年9月8日(土) 14:00より
場 所：京王プラザ 5F エミネンスホール
(平服でおいで下さい)

会 費：7,000円

(会場で頂戴します。これには、お花料を含みます。)

お返事：準備の都合上8月25日までに
大学婦人協会事務所までFAXで
出欠のお返事をお寄せください。

FAX：03-3358-2889

ユニフェム東京
第11回 チャリティーコンサート

ハープ演奏家、ケルト音楽研究家として活躍中の
菊地恵子氏・菊地砂織氏による親子ハープデュオ

金属弦ハープ、吟遊詩人ハープ、
アイリッシュハープ、グランドハープ

菊地恵子・菊地砂織
ハープコンサート

2007年11月17日(土) 14:00時開演

東京都庭園美術館
新館ホール

3,000円

主催/ ユニフェム東京

日本・アイルランド外交関係樹立50周年

後援/ 駐日アイルランド大使館

●お申し込みは、住所・氏名・電話番号・枚数を明記の上、
下記までFAX または郵送でお申し込みください。

〒169-0074 新宿区北新宿 3-6-5-205

FAX=03-3371-5201

ユニフェム東京コンサート係

新会員募集中！！

年会費(1月～12月)

個人会員 3,000円

団体会員 5,000円

賛助会員(議決権なし) 10,000円

●ご連絡いただきますと振り替え用紙をお送りします。

*郵便振替：00190-6-550880

*口座名：「ユニフェム東京」

※前号掲載の新規会員名に誤りがありました。

熊山正男様 ⇒ 熊田正男様

訂正して深くお詫び申し上げます。

【編集後記】

※日本に住むペルー人の友人が、在日外国人の女性とその家族の
サポーターとして、周りの人を巻き込みながら精力的にボラン
ティア活動をしている姿に刺激をうけている昨今です。(Hi)

※アフガニスタンで人質事件が起こりました。首都カブールの隣、
ガズニ州と云えば、ユニフェムが3年前から支援している「ア
フガニスタン女性センター」のあるところ。女性へのマイクロ
クレジット・プロジェクトが着実に進展しているとの報告が来
ている矢先、社会的な不安状況に心が痛みます。(S)

お話の会
開催ご案内

第4回:9月13日(木)13:30～

(仮題)「コソボの難民支援」

講師: コソボ難民支援の会
(ACC) 松永知恵子氏

第5回:10月18日(木)13:30～

(仮題)「フィリピンの女性の状況」

講師: サントール会の
駐フィリピン大使夫人
山崎憲子氏

第6回予定:10月25日(木)

(仮題)「ルワンダの紛争被害者に
義足のプレゼント」

講師: ワンラブプロジェクト
日本事務所代表
ルワシングワ真美氏
(吉田 真美)

●会場=津田塾大学同窓会会議室
参加費無料

皆さまのご参加をお待ちしています。

●詳細はユニフェム東京にお問い合わせ下さい。

☆ご入会いただき有難うございました。

2007年2月～6月末日(敬称略)

新規会員: チェン ミオ 神谷 威吉郎
酒川 万里子 萱内 芳治
長田 満江 松村 美津子

☆ご寄付をいただき有難うございました。

2007年2月～6月末日(敬称略)

寄付者: 友清 和親 鈴木 賀子
笹岡 敏子 田中 和子
松比良 節子 山田 美也子
大岡 静衣 武内 あや子
兼目 和子 松村 美津子
豊倉 桂子 磯村 明子
亀田 篤子 深田 寿子
森 睦子 山田 智子
白根 和味 南 裕子
市川 嘉祐

活動寄付者: 五十嵐 康子 西郷 尚子
山田 美也子 中村 ミチコ
泉 美和子 武内 あや子
奥田 豊子 山田 智子
加藤 恭子

ユニフェム東京NEWS 第22号

発行人: ユニフェム東京会長 五十嵐康子

発行日: 2007年8月9日

ユニフェム東京事務局

〒169-0074 東京都新宿区北新宿3-6-5-205

TEL/FAX:03-3371-5201 金曜11時～15時

郵便振替:00190-6-5508800

http://www.unifemtokyo.org